

著者プロフィール

永井 久美子（ながい・くみこ）

東京大学大学院総合文化研究科准教授。専門は比較文学比較文化、日本古典文学。特に平安時代を中心とする絵巻物を研究対象とする。東京大学ヒューマニティーズセンターブックレット第6号『「世界三大美人」言説の生成——オリエンタルな美女たちへの願望』（2020年）のほか、主要論文に「『源氏物語』幻巻の四季と浦島伝説——亀比売としての紫の上」（島尾新・宇野瑞木・亀田和子編『アジア遊学246 和漢のコードと自然表象——16、7世紀の日本を中心に』勉誠出版、2020年3月、pp. 115～123）、「紫式部の近代表象——古典文学の受容と作者像の流布に関する一考察」（『鹿島美術財団年報』第33号別冊、2016年11月、pp. 412～423）、「暴露の愉悦と誤認の恐怖——「病草紙」における病者との距離」（牛村圭編『文明と身体』臨川書店、2018年、pp. 9～37）などがある。

謝辞

本ブックレットは、東京大学ヒューマニティーズセンター主催のオープンセミナー「作家の身体と新聞報道——三島由紀夫の例から考える」（第55回、2022年2月25日開催）および「作家イメージの類型論——頬杖、たばこ、筆記具」（第74回、2022年7月29日開催）における発表を踏まえた内容であり、東京大学ヒューマニティーズセンター公募研究（A）「近代男性作家像の成立と前近代——その連続性と不連続性」および科学研究費助成事業基盤研究（C）「前近代文学者たちの近代——明治・大正・昭和期における伝記と肖像の継承と変容」の助成を受け刊行されたものです。各オープンセミナーにてディスカッサントを務めてくださった仁川大学の南相旭先生、李碩先生にここに深く謝意を表します。